

Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024

【受賞者のプロフィール等】

Saeborg (サエボーグ)

1981年富山県生まれ、東京都在住。
2006年女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻卒業。

半分人間で、半分玩具の不完全なサイボーグとして、人工的であることによって、性別や年齢などを超越できると捉えるラテックス製のボディースーツを自作し、パフォーマンスとインスタレーションを国内外で展開する。カラフルで、デフォルメされた雌豚や牝牛などの家畜や害虫などが繰り広げるパフォーマンスは一見明るく楽し気だが、人間の残酷性や消費の問題のみならず、人間社会における介護やケアの問題にも接続し、強者/弱者、支える側/支えられる側という二項対立ではおさまらない、多様性の受容、共生の問題に発展させている。

○主な展覧会

個展「Cycle of L」(高知県立美術館、2020)
「SAEBORG: SLAUGHTERHOUSE 17」(Match Gallery、リュブリャナ、スロベニア、2019)
「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」(愛知県芸術劇場)
「TARO賞20年/20人の鬼子たち」(岡本太郎記念館、東京、2017)
「六本木アートナイト2016」(六本木ヒルズ A/D gallery、東京) など。



「DARK MOFO 2019『Pigpen』」公演風景(Avalon Theatre、ホバート、オーストラリア)
Photo: DARK MOFO 2019

津田 道子 (つだ みちこ)

1980年神奈川県生まれ、石川県在住。
2013年東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程映像メディア学専攻修了。

映像メディアの特性に基づき、インスタレーションやパフォーマンスなど多様な形態で制作を行う。映像装置やシンプルな構造物を配置した空間で、虚実入り混じり、パフォーマーとの境界が曖昧になる鑑賞者の視線や動作を、知覚や身体感覚についての考察へと導く。また、2016年よりパフォーマンスユニット「乳歯」として、小津安二郎の映画作品における登場人物の動きを詳細に分析し、そこに内在する人との距離や、女性の役割に関する問題を可視化するパフォーマンスなどを展開する。

○主な展覧会

「第10回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(Queensland Art Gallery and Gallery of Modern Art、ブリスベン、オーストラリア、2021)
個展「トリローグ」(TARO NASU、東京、2020)
「『インター+プレイ展』第1期」(十和田市現代美術館、青森、2020)
「六本木クロッシング2019展:つないでみる」(森美術館、東京)
「TOKAS Project Vol.2 『FALSE SPACES 虚現空間』」(TOKAS本郷、東京、2019) など。



《あなたは、翌日私に会いにそこに戻ってくるでしょう。》2016-2020、
「オープン・スペース 2016 メディア・コンシャス」展示風景(NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、東京)
Photo: 山本 糾